

室蘭港

室蘭市港湾部

〒051-0022 北海道室蘭市海岸町1丁目20番地30

☎0143-22-3191

URL : http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8100/port_index.html



1. 概況

室蘭港は北海道の南西部内浦湾の東端に位置し、その語源であるアイヌ語の「モ・ルエラン（小さな坂道を下りたところの意）」のとおり、港は三方を丘陵地に囲まれ西方向に開口した天然の良港である。また港口は南北外防波堤があり、港湾区域内面積は1,598haでその約80%が9m以上の水深を有し、本航路は北海道最大の水深（-16.5m）を有することから超大型船の入港に適している。平成30年の港勢は5,331隻、22,856千総トン入港を数え、22,673千トン（外貨11,777千トン、内貨10,896千トン）の貨物を取り扱い、外国貿易金額は輸出1,252億95百万円、輸入2,265億3百万円、合計3,517億98百万円であり、産業・流通の拠点としての役割を担っている。

室蘭港は明治5年に室蘭海関所が置かれ、また、内浦湾の対岸に位置する森港との間（40km）に定期航路を開設により、港としての第一歩を踏み出した。その後開発が進むにつれて、明治25年に室蘭と岩見沢間（136km）の鉄道敷設により、内陸の石狩炭田の石炭積み出しが始まり、北海道開発に大きな役割を果たしてきた。また、明治27年に特別輸出港に指定され、明治32年には関税法による普通貿易港として開港した。

明治40年代には石炭産業に依存する産業として輪西製鉄所（現日本製鉄株）、（株）日本製鋼所の二大工場が操業を開始し、道内唯一の工業港として発展の基礎が築かれた。大正11年には市制が施行され、その後相次ぐ軍備拡張により重工業都市としてめざましい発展を遂げたが、戦後は軍需工業から平和産業への速やかな転換とともに、昭和24年に外国民間貿易港の指定を受け、昭和28年には室蘭市が港湾管理者として発足し、商工業港として発展するに至った。

このようにして室蘭港は立地条件と相まって、北海道総合開発の拠点港としてその重要性は内外の認めるところとなり、昭和27年初の公共埠頭として中央埠頭が完成し、引き続き西1号、西2号、西3号埠頭が完成するとともに、日通、本輪西等の民間埠頭も整備された。昭和39年の新産業都市の指定と合わせ、増加する入港船舶に対処して泊地の拡大のため外港築設工事に着手し、昭和40年4月には東北・北海道唯一の特定重要港湾（現国際拠点港湾）に昇格し、昭和44年に新日本製鉄株（現日本製鉄株）が鉱石専用の-16.5m岸壁を建設し、昭和46年には陣屋町の工業用地が完成、昭和47年には北外防波堤2,120m、同年に日本石油精製株（現ENEOS株製造部室蘭事業所）が原油タンカー用の-16.5mシーバース

を建設した。続いて昭和53年には南防波堤1,758mが完成し、また昭和63年5月には動物等指定検閲物の輸入港として指定を受けている。近年では、港一体となった環境関連産業の取り組みが認められ、平成14年にリサイクルポートに指定され、平成15年には広域防災フロートの完成による防災機能の強化、平成16年には港湾テロ対策を図るなど、時代の要請に対応した新たな機能整備を行っている。また、平成10年に完成した港口をまたぐ白鳥大橋（ベイブリッジ）は環状道路網として港を中心とした円滑な交通を確保するとともに、港湾地区と高速道路を直結し、背後圏域への港湾貨物の円滑で効率的な輸送に大いに貢献しているところである。

フェリーについては、昭和42年の青森～室蘭航路の開設に始まり、最盛期には八戸、大洗、直江津、大畑、大間を加えた延べ6航路となり賑わいをみせたが、経済情勢の変化から複数あった航路は徐々に縮小し、平成20年の青森～室蘭航路の廃止を最後にフェリーが就航していない状況が続いていた。平成30年6月に10年ぶりとなる岩手県宮古市と室蘭市を結ぶ宮蘭航路が開設され、八戸港を経由するダイヤ変更を経て、令和2年4月から室蘭～八戸航路として運航となった。

加えて室蘭港は、港湾における交流空間の整備にも注力しており、祝津絵鞆地区では、平成4年にマリナーを供用し、水遊びや磯場を備えた親水緑地の整備や温泉開発を進め、新たな魅力や交流の場づくりに務めている。入江地区では、平成11年に北海道初の旅客船バースが供用し、市民等で賑わいを見せている。クルーズ客船の大型化と寄港数の増加に伴い、祝津絵鞆地区の祝津埠頭においては、北日本で唯一の世界最大級のクルーズ客船（22万GT級）の着岸が可能となるよう、水深11m岸壁2バース（410m）への整備に着手したところであり、開港150年となる令和4年に一部供用を目指している。

現在、室蘭港では貨物量の変化やフェリー航路の就航など、港を取り巻く環境に大きな変化が生じていることから、平成6年以来となる、抜本的な港湾計画の見直しを行っている。改訂にあたり、室蘭港の20～30年後の将来像を定めるため、「物流・産業」、「人流・賑わい」、「エネルギー」、「環境」、「安全・安心」の5つの方向性について検討を行い、令和2年12月に室蘭港長期構想を策定したところである。それを踏まえ港湾計画の改訂を予定している。